

◎ はまなか

議会だより

NO 134

令和2年10月15日発行



9月定例会

予 算 審 議 二 次 質 問	新型コロナウイルス感染症対策事業	2P~4P
予 算 審 議 二 次 質 問	6人の議員が町政を問う	6P~11P
	真善美 (新岡 慎之介 さん)	12P

9月10日に霧多布保育所
さくら組の7人が浜中消防
署で放水体験をしました。
今年にはコロナの影響で例
年とは違った形でしたが、
防火服を身に纏い小さな消
防士たちは真剣な表情。終
わった後はみんな消防士に
なりたいたいと言っていました。

表紙の写真

光回線整備が具現化

～令和4年度使用開始予定～

9月
定例会

9日・10日

9月定例会が9日・10日の2日間の会期で開催。
一般会計・特別会計補正予算と条例改正など
27議案が上程され、いずれも原案どおり可決
しました。

一般会計は8億6578万円を追加し、予算
総額128億4268万円となりました。
一般質問は、6人の議員が登壇しました。

実質町負担約1億円で 全町に光回線を整備

回線整備はNTTが国の補助を活用し実施する
もので、総事業費10億6530万円から国の補助額
と利用者の回線使用料の見込み額を差し引いた残
り5億2530万円をNTTへ負担金として町が
支払う。

財源は、オンライン化の推進を図る国の3次補正
による特別臨時交付金2億1760万円と町債3
億770万円であるが、過疎債の適用となることか
ら実質負担は約1億円となる。

令和2～3年度で整備し、4年度からの使用開始
を予定。

補正予算審議から

新型コロナウイルス 感染症対策事業

新型コロナウイルス 感染症対策事業

交付金対象となる主な事業

○ハード事業（機器・物品
の購入や施設改修など）

答 臨時休校時の学習補償
対策として、遠隔用パソコ
ン・実物投影機・ウェブカ
メラ・スキャナーなどを備
える。

問 歯科診療所パーテーシ
ョン設置192万円および
飛沫感染症対策スクリーン
購入88万円の内容は。

問 1台62万円で購入する
体温検知顔認証カメラの機
能と設置場所は。

答 パーテーションは、診
療ユニットごとに天井まで
ある間仕切りで、茶内99万
円・霧多布93万円。

スクリーンは、乳児健診
や特定検診時などでの個別
用間仕切りで、移動しやす
い折り畳み式を10台購入。

問 斎場改修工事800万
円の内容は。

問 小学校215万円・中
学校260万円で購入する
教材の内容は。

答 工事内容は
空調機器改修 205万円

合併処理浄化槽設置（18人槽） 395万円
トイレ水洗化 125万円
屋外排水設備 75万円

※その他の感染症対策として
手洗場蛇口の自動水栓
化・空気清浄機・網戸・消
毒剤など施設ごとに必要な
対策を実施する。

○ソフト事業（経済対策や
経営・生活支援事業）

問 「ゆうゆ」指定管理者事
業継続支援補助1258万
円の算出根拠は。

答 観光客などの減少によ
る収入減対策として、前年
同月比の売上が30%以上減
少した月から回復する月ま
でとし、指定管理料の30%
を限度額とした。

問 介護施設への事業継続
補助300万円と支援事業
補助300万円の内容は。

答 継続補助は、介護サー
ビス事業収入が30%以上減
少した事業所へ150万円

を上限に支援するもので、
ショートステイ分150万
円・デイサービス分150
万円をハイツ野いちごへ補
助する。

また、支援補助は感染予
防対策費として、ハイツ野
いちごへ200万円となご
み浜中・社協えぞふうるへ
各50万円を補助する。

問 高齢者生活支援給付金
2625万円の事業内容と
対象者は。

答 感染予防から敬老会が
中止になるなど外出自粛に
よる高齢者の心的ケアとし
て、一人3万円を支給する。
令和2年9月1日現在にお
いて浜中町に在住し、12月
31日までに75歳となる87
5人が対象。

問 家庭ゴミ廃棄支援事業
1970万円の内容は。

答 外出自粛により家庭で
の資源物・廃棄ゴミの増量
対応として資源物用袋（45
リットル）20枚と燃えるゴミ用袋
（40リットル）10枚を全世帯に無償

配布する事業で、引換券を
郵送し役場本庁と両支所で
引き換える。

なお、高齢者への配慮と
して、引き換えは代理人で
も構わない。

問 商工費の事業継続固定
費補助120万円の内容は。

答 テナント事業者へ家
賃・地代の支援で、売上が
前年同月比50%または3カ
月連続で30%以上減少した
場合に、国へ直接申請する
と6カ月分の3分の2が国
から給付される。

この度の補正は、残りの
3分の1を補助するもので
申請のあった個人事業主11
件分と今後の見込みとして
8件分を予算計上。

問 産業振興奨励補助30
7万円および漁業経営継続
支援事業補助1771万円
の内容は。

また、漁協に対する経営
支援の考えは。

答 新型コロナウイルス感
染症により生産活動に影響

が出ている漁業者および漁
業協同組合に対し、経営の
安定化を目的にしたもの
で、水産物の新たな市場開
拓を図るため浜中・散布両
漁協のホームページ（HP）
開設の費用として156万
円、水産物付加価値化流通
改善事業として養殖ういの
ブランド化促進のため荷揚
げ用うにカゴ500個、加
工商品に貼る表示シール、
商標登録料などで151万
円を浜中水産物振興

協議会に補助。

さらに、漁業経営
継続支援補助とし
て、漁業者が支払う
漁業料を浜中漁協に
1109万円、散布
漁協に662万円を
補助する。漁業者が
既に支払った漁業料
は払い戻される。

漁協に対する経営
支援は、魚価安によ
り手数料収入が減少
しており、今後の状
況を見ながら両漁協
と協議し支援策を検
討する。

問 経済対策として発行す
る応援券5700万円の内
容は。

答 地域経済応援券として
町内限定で使える1万円分
の券を発行する。

その内訳は、2千円が牛
乳・乳製品用、3千円が飲
食店用、一般の商品券5千
円を合わせて発行する。
9月現在で住民登録され
ている全町民に配布する。



環境改善される斎場

ロタウイルス予防接種委託料の内容は

問 ロタウイルスワクチンは、副作用の心配から実施されなかった経緯があった。今回実施されることになった内容および何歳児からの接種で対象人数は。

答 安全性は昨年、厚生審議会で議論され答申が出されたことから今年10月よりワクチン接種が無償で実施されることになった。

対象は、今年8月以降に生まれた乳児で、生後6週から24週までの間に2回接種を行う。
40人の2回分で120万円を予算計上。

町営バスの運行経費は

問 10月から委託料2122万円円で町営バスが運行されることにより、これまでの巡回バスおよびくしろバスの2路線が廃止となる。次年度以降のバス路線維持に係る経費は。

霧多布湿原線は観光客対応としてデマンド形式で土日・祝日も運行されるが、予約制であることなどの周知方法と町内観光業者からの代理予約は可能か。
また、茶内駅が乗り継ぎ拠点となるが駅舎の暖房およびトイレ改修の考えは。

答 補正額は10月から3月までの半年分で、次年度の運行委託料は4244万円となる。これまでのくしろバス2路線分1826万円と巡回バス分428万円は不要となる。

公共交通維持費は、約2千万円の増となるが、町民の利便性や町内の経済効果・雇用対策も図れる事業

である。
周知は旅行代理店やJR広報などを通じ徹底を図

る。代理予約は可能である。
また、茶内駅では、接続時間が比較的短いことから暖房は考えていない。トイレ改修は、JRとの協議を進め対策を急ぎたい。



10月1日から活用される町営バス

その他の主な歳出（一般会計）

歳出の内訳	金額
中小企業特別融資（新型コロナウイルス感染症対策特別融資） 利子補給基金積み立て	1071万円
公有財産購入（防潮堤敷地10筆 3,908㎡）	774万円
ルパン三世地域活性化プロジェクト運営費補助（事業内容の変更）	245万円

決算審査特別委員会を設置

令和元年度の各会計の決算書が監査委員の意見書を添えて議会に提出された。議長・議選監査委員を除く10名の議員による委員会を設置し、閉会中の継続審査とした。

過疎地域自立促進計画の変更を可決

浜中町過疎地域自立促進市町村計画に「光回線施設設備等整備事業」を加える変更を可決した。これにより、町内における光回線整備事業が有利な財源である過疎債の対象となった。

人権擁護委員の推薦に同意

山口寿宏氏は、12月31日付で任期満了となることから、適任と認め、推薦に同意しました。



山口 寿宏氏 (茶内)

教育委員の任命に同意

掛水優氏は、9月30日付で任期満了となることから、無記名投票の結果、全員賛成で適任と認め、任命することに同意しました。



掛水 優氏 (西門朱別)

財産の取得を可決

- 浜中町ウニ種苗生産センター施設用備品（電子機器類）一式購入
 - （取得先） 株式会社カマザワ
 - （取得金額） 825万円
 - （納期） 令和3年2月15日
- 浜中町ウニ種苗生産センター施設用備品（波板洗浄機等）一式購入
 - （取得先） 株式会社丸産栗本商店
 - （取得金額） 871万円
 - （納期） 令和3年2月15日
- 浜中町ウニ種苗生産センター施設用備品（波板・波板ホルダー）一式購入
 - （取得先） 株式会社金力田中商店
 - （取得金額） 1243万円
 - （納期） 令和3年2月15日
- 学校用情報端末等一式購入
 - （取得先） 中央コンピューターサービス株式会社
 - （取得金額） 2087万円
 - （納期） 令和3年3月31日

意見書

可決

◇ 林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書

◇ 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し地方税財源の確保を求める意見書

◇ 国土強靱化に資する道路の整備等に関する意見書

(全員賛成)

可決した意見書は、内閣総理大臣をはじめ関係大臣、衆・参両議院議長に提出しました。

条例制定を可決

- 浜中町営バス運行に関する条例
 - 町民生活に必要な交通手段の確保のほか旅行者の利便性を図り、地域の実情に即した輸送サービスを実現するため、これまで運行していたくしろバスによる路線を再編し、町民の生活を支える公共交通として10月1日より5路線の町営バスを運行する条例を可決した。
- 浜中町中小企業特別融資（新型コロナウイルス感染症対策特別融資）利子補給基金条例
 - 新型コロナウイルス感染症の影響により浜中町中小企業特別融資（新型コロナウイルス感染症対策特別融資）資金を受けている事業者への5年分の利子補給金を国の臨時交付金を財源に積み立てる条例を可決した。

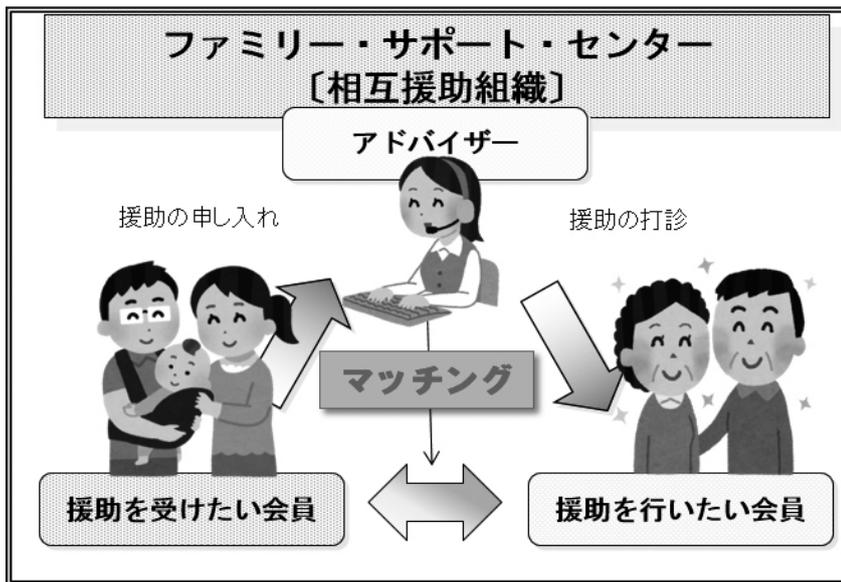
一般質問

田甫 哲朗 議員



問 子ども・子育て支援策の充実を

答 ニーズ調査を含め検討したい



ファミサポのイメージ図（厚労省版）

田甫 「すべての家庭の子育てを支援する環境づくり」を基本目標に、支援計画が作成された。一時預かり保育の実施や子育て支援センターの開設など改善が図られているが「子どもの居場所づくり」を望む声もある。

田甫 管内6町村を含め近隣町村では児童館事業を実施しすべての児童の居場所づくりを図っている。浜中町だけが実施できない理由は。
町長 町では就労世帯の小学生を対象に、放課後児童クラブを実施してきた。これまで児童館についての要望はなく協議もしていない。今後、ニーズ調査など保護者の意向を伺う必要があると思っている。

田甫 近隣町村は、ファミリーサポート事業を実施し地域ぐるみでの子育て支援を図っている。本町では、平成29年度から実施する計画であったが未だに実施されていない訳は。
町長 アンケート調査からファミサポ制度があれば利用したいとの回答がある中事務作業が滞ってしまった。他町村の先進事例を参考に

実施に向け取り組んでいく。
田甫 へき地保育所での未満児の受け入れ、一時預かり保育の実施は。
町長 保育士の確保や施設改修が必要となり現状では難しいと考える。2歳未満の児童は、常設保育所への入所をお願いしている。現在、へき地通所区域からは霧多布保育所に9人・茶内保育所に7人の未満児が入所している。
田甫 霧多布保育所は、高台移転改築の方向性が示された。実施時期の見通しと防風対策が必要と思うが保育現場を担う職員の考えは反映されているか。
さらに、定数の見直しは。
町長 町財政にとって有利な財源確保を図り、用途が付き次第実施していく。保育士の意見聴取は行っていないが安全確保が最優先との考えで一致している。建設に際しては、保育現場の考えを反映させていく。現定数140人に対し55人の児童数であることから移転後の定数見直しが必要と考えている。

一般質問

加藤 弘二 議員



問

「ポイ捨てゴミ拾い隊」の結成を

答

交通事故などの危険を考慮

加藤 車からのポイ捨てゴミが、8月に急激に増えた。建設管理部によると7月、8月に交通量が急激に増えたとのこと。それが原因ではないか。

町長 私たちもそのように受け止めている。

加藤 ポイ捨てゴミを無くするために、町はどのようなことを行なっているか。また、その効果はどうか。

町長 春、秋の一斉清掃や湿原センターに集まり、湿原のゴミ拾いなどを行っているが、ポイ捨てゴミはなかなかならない。

ポイ捨て行為は、罰則の付いた法律がある。

加藤 今回私は、MGロード端から茶内の踏切まで8月いっぱいかけて毎日30分ゴミを拾って歩いた。缶類、ペットボトル、たばこの箱、弁当ガラ、コーヒーの紙コップ、衣類、汚物などゴミの多いことに驚いた。そして、気軽に捨てたであろう人たちへ嫌悪感を抱いた。

国道44号線から北側には、ポイ捨てゴミは少ない。東西に走る枝道にはほとんど見られない。ポイ捨てゴミが見られるのは国道44号線から南側で民家の少ない道道である。全町民に呼びかけて、年中場所を決めて「ポイ捨てゴミを拾い隊」を結成しボランティアで拾って歩く活動を提案したい。

1人ではできないが、数百人の町民でわずかの距離を分担してやれば、楽で成果は見えてくるはずだ。



無くならない不法投棄

まずは、担当課が実際に道路の区間を決め1カ月間、毎日でも3日に1回でも実際にポイ捨てゴミを拾って初めて解決策が見えてくると思う。

私は、この問題の解決は一筋縄ではできないと思うがやってみる気はないか。

町長 ゴミ拾いは、交通事故や熊と出くわす危険性もある。

一般質問

前田 光治 議員



問 景観条例の策定期間は

答 当初計画より
一年ほど遅れる

前田 自然エネルギー発電設備事業者の民有地取得により景観が損なわれている。景観条例の策定を急ぐべきと思うがどうか。

町長 景観条例および景観計画の策定は、現在、他の先進市町村の例を参考に設置規則および試案などの検討を進めている。

ただ、新型コロナウイルス対応としての交付金事業



複線化工事が始まるMGロード

問 避難対策の進捗状況は

答 具体的な整備計画に至っていない

や国勢調査業務などの事務が重なったことでスケジュール的には1年ほど遅れる。

前田 道道琵琶瀬茶内停車場線（MGロード）の複線化は。

町長 MGロードの複線化は、道路敷地の拡張が難しいことから現在設置の歩道を改修し、一車線程度の幅

を確保する。

通常は片側一車線で有事の際には、茶内方面に実質二車線走行が可能となるよう整備をする。

昨年までに地質調査および実施設計が終了していることから本年10月より寿磯橋方面より工事を実施する予定。

前田 丸山散布地区避難道の整備計画は。

町長 丸山散布地区避難道は、現実的な避難ルートとして湖沼公園から高台に車で避難するルートの協議を行い、地域住民の了解を得ている。

早期に着工できるよう財源確保に努めたい。

前田 仲の浜・新川・暮帰別地区の避難タワーの建設進捗状況は。

町長 避難タワーの建設の必要性は充分認識しており地域防災計画に明記されている。避難困難地域の仲の浜・新川・暮帰別地区を対象に避難基礎調査を実施したが、現時点で具体的な整備計画には至っていない。

一般質問

川村 義春 議員



町営バスの運行を 湯沸地区に拡充を

運行ルートの変更は 協議会で検討する

問

答

川村 浜中町地域公共交通網形成計画に沿って10月1日より町営バスの運行が始まるが、湯沸地域を巡るルートの増設を望むお年寄りの声がある。
その実現には、新庁舎と新たな避難道が完成・整備された後に町営バスの運行ルート変更と役場前停留所を設置する計画があるので合わせて湯沸上・下海岸に

バス停留所の設置を望む。
町長 町営バス運行に向けては、アンケート調査・乗降調査・実証運行・地域との意見交換会などを含めて浜中町地域公共交通活性化協議会で協議検討を重ね10月1日からの運行開始となった。

湯沸地域を経由する路線および停留所の増設は、運行後の新たな課題と合わせ協議会で検討し、変更内容を決定後、改めて国土交通省へ変更認可申請手続きを行いたいと考えている。

問 「浜中養殖うに」のGI制度申請は

答 申請は来年3月頃で登録まで1年以上

川村 「浜中養殖うに」の地理的表示（GI）保護制度への登録による特産品の差別化を図る申請は。

町長 GI制度の登録申請の事務作業が遅れ、6月に申請サポート事務局に相談した。

「浜中養殖うに」の名称での出荷がされていないので、登録要件に欠くとの指摘を受けた。今定例会補正

「浜中養殖うに」の周知宣伝



うに加工品に貼られるシール



○「浜中養殖うに」とプリントされた専用かご

予算で、「浜中養殖うに」の名称入り荷揚げかごや加工品に貼り付けるPR用養殖うにシールを作成し、周知宣伝活動を行い、市場に流通した後に状況を見計らって来年3月に申請したい。

問 指定緊急避難場所の照明灯の設置は

答 渡散布の照明灯は今補正予算で対応

川村 緊急避難場所6カ所の照明灯設置に向けたスケジュールは。

町長 今定例会補正予算で渡散布の2カ所を34万円

整備する。他はアゼチの岬を優先し避難場所の実態を踏まえ順次整備を検討。

問 太陽光パネル設置規制条例の制定は

答 太陽光発電施設の設置に関する条例を制定

川村 太陽光パネル規制条例制定の検討結果は。

町長 規制条例とせず、太陽光発電施設の設置に関する条例として、設置区域の抑制区域・禁止区域、申請前の事前協議などを盛り込んだ条例を来年4月1日から施行したい。

一般質問

落合 俊雄 議員



問

中小企業振興基本条例 の制定は

答

来年4月施行に向け 検討している

落合 各市町村において「中小企業振興基本条例」を制定する動きがある中、本町においても名称に違いはあるが同様の条例制定を求める声があると聞く。条例制定は考えているのか。また、基本理念はどのようなものか。

町長 これは2018年6月に「北海道中小企業家同友会くしろ支部ルパン浜中



浜中町地域経済分析報告会（総合文化センター）

地区会」より条例制定について打診があり、町・商工会・同友会で数回の条例検討会を開催し今日に至っている。

本町の中小企業者・個人事業者は経済活動全般にわたって重要な役割を果たし労働者の雇用や消費をはじめ町民生活に大きな影響を

与えている。近年のグローバル化や人口減少など事業者を取り巻く環境は一層厳しさを増している。

本町の経済発展と町民生活の向上を図るためには、これまで以上の産業振興施策を推進し、事業者・町民・行政の役割を明確にし、一体となって域内循環を強化

するためにも必要な条例だと考える。来年4月の施行に向けて検討を進めている。

理念は、事業者の創意工夫を尊重し、町民の理解と協力、そして行政が一体となって施策を進めることを基本にしている。

落合 本町は、これまで基幹産業である農漁業と商工業をはじめとするさまざまな業種が相互依存の関係を保ちながら発展してきた経過はあるものの、社会環境の変化に伴い人口減少が進む中、全産業において事業者数も減少の一途を辿ってきた。そのなかで今検討されている条例は現状をしっかりと見つめる中から活路を見出そうとする点では期待したい。

そこで求められるのは事業者並びに行政の本気度ではないか。

町長 後継者対策、教育も含め、全ての産業の連携を図ることが、この町の将来に繋がると考えている。

難しいことではあるが、しっかりと取り組んで行きたい。

一般質問

渡部 貴士 議員



問 観光推進で地域が稼ぐ力を

答 各団体などと協議して行く

渡部 新型コロナウイルス感染症による自粛制限などにより、世界的にも観光業は経済的損失が大きく、昨年12月に同様の質問をした際には感染症騒動などは無く、現在、社会情勢が大きく変わった。コロナ禍の中、国定公園化認定に向け、観光業の在り方について問われる時期だからこそ、観光を始めとする交流人口が地域の「稼ぐ

渡部 霧多布岬に営業するラッコが新聞やテレビ報道によって話題となり、天然個体を陸地から観察できる国内唯一の地域として観光客が集まって

力」を引き出し、浜中町の活性化につながると考えるが、観光協会のDMO（観光地域づくり法人）化は。**町長** 新型コロナウイルスの影響により役員会も開催されていないのでまだ検討していないが、厚岸道立自然公園が国定公園に認定される頃には検討を始めた。商工会で実施した地域外需要獲得強化事業での課題にもなっているので、各産業団体、関係団体、町づくり専門家などによる準備協議会を立ち上げる前段として、今年度中に担当者レベルの会合を実施したい。

渡部 霧多布岬に営業するラッコが新聞やテレビ報道によって話題となり、天然個体を陸地から観察できる国内唯一の地域として観光客が集まって

いる。基幹産業である漁業と観光資源としての野生動物との持続可能な共生共存は、当町における国定公園化にも重要課題と考えるが、検討委員会によるルールや規制などの対策は。**町長** ラッコは環境省では「ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの」として分類されるが、天然ウニやカニを餌として捕食しているために漁業被害対象生物にも成り得る。浜中町としては、観光資源としての存在は大きいものと考えてはいるが、あえて生息することを広める宣伝などはせず、展望台から観察する程度を推奨し静かに見守って行きたい。テレビ番組での放映や国定公園認定後には観光客が増えると思込まれるので、個体観察を続けてきた有識者と観賞ルールを決め、観光リフレットなどを今年度中に作成して周知したい。



新しい観光ポスター

真美音楽

霧多布高等学校
2年A組

新岡慎之介



霧多布高校に入学して「浜中学」を学び1年半が過ぎようとしています。1学年の授業では、浜中町について「知る」というのがテーマでした。浜中町の産業、自然、歴史などさまざまな分野のクイズを解いて、より興味を持ち、より深く考えることから始まりました。その他にも、浜中町の一次産業について知るため、酪農や漁業について、講師の方々にお越しいただき、それぞれの現状や課題を知ることができました。また、「浜中町の絶景ス

ポット巡り」は特に印象に残っています。この授業では浜岬や琵琶瀬展望台に実際に行き、写真を撮り、浜中町の雄大な自然に改めて触れる機会となりました。この課外授業を通じて酪農や漁業だけでなく、自然とその美しさにも興味・関心を持つべきだと感じました。2学年からは「知る」ではなく「調べる」がメインとなっており、その一環としてプレゼンテーションスキルについて学んでいます。まず、自分が発表する際の課題・特徴を知るために、「出生時のエピソード」などの簡単な発表をたびたび行いました。それらで学んだことを踏まえて、8月には2・3学年合同での発表会が行われました。私たちは2学年は、1学年の時に学んだことから考えられる「浜中町の課題」について、3学年は「浜中町の運動やスポーツ」についてグループごとに発表しました。そして、発表後には質疑応答の時間が設けられていて、学年にとらわれずに質問を出

しあい、互いに対応力を高め合うことができました。今回の発表を終えて私たちが感じたことは大きく2つあります。1つ目はもつと浜中町について深く知り、探究する必要があるということです。2つ目は3学年のような探求した内容を発信するために、私たちもさらにプレゼンテーションスキルを身に付けるべきだと感じました。残りの1年半は今回感じることのできた課題を忘れずに、より一層、浜中町について探求し、それを発信できる力を身に付けていきたいと考えています。

● 揮毫 書道部2年A組 渡辺さくらさん
● 読み方 しんぜんび
● 意味 完全なる善と美のこと。



町のトピックス

鮭定置網漁

9月11日撮影

今が旬の食べ物、鮭定置網漁が始まっている。今年の秋サケは昨年より魚体が大きく、選別作業も活気が感じられ、銀鱗を躍らせ宙を舞っていた。今後の豊漁を期待したい。



町のトピックス(話題)を募集します! この欄に掲載するまちの季節の写真をお寄せください。次回の発行は令和3年1月15日です。ご応募はこちらへ 浜中町議会事務局 E-mail: gikai@town.hamanaka.lg.jp TEL: 62-2265

発行 北海道浜中町議会 議会広報聴常任委員会
〒088-1592 北海道厚岸郡浜中町霧多布東4条1丁目35番地1
0153-62-2220・2265

この議会だよりは再生紙を使っています